



「五重塔、ブルーライトアップ」
四季の部 銀賞 日野市 設楽 誠一



防災の日におもう

別格本山高幡山金剛寺 貢王 杉 田 純 一

九月一日は防災の日です。この日は十万人以上の死者を出した大正十二年の関東大震災が発生した日であり、またこの頃が台風が多いとされる立春から二百十日にあることにより、「災害への備えを忘ることなく、災害の未然防止と被害の軽減につとめるべく」、昭和三十五年に防災の日が制定されました。

この防災の日を迎えると、私は大正元年生まれの亡き母のことを思い出します。母は生家があった赤坂（現在の東京都港区）で関東大震災に遭い、その体験からか、こと地震に対しては敏感に反応していたことをみていた私は、子供ながらに本当に恐ろしい地震だったのだとよく思つたものでした。

関東大震災後の日本では、台風や大雨による水害や土砂崩れ、地震やそれにともなう津波、火山の噴火等、多くの災害がありました。「天災は忘れた頃にやつてくる」とよく言ったものですが、特に近年は忘れる間もなく、毎年各地で災害が以前に比べて頻繁におきていると感じているのは、私だけではないはずです。

私が小さい頃、高幡から八王子市の北野までの尾根伝いにハイキングコースがあり、途中には簡素な遊び場、小さな動物園、それから茶店もあつたように記憶しています。それから五十年以上の時を経た現在、それらの施設はとうに無く、ハイキングコースがあつた山は宅地の造成、道路の整備等で寸断されて見る影もありません。一方、人の手が入らなくなつた山林は荒廃が目立つようになります。自然と人の営みとのバランスが崩れて久しいようです。

また世界では、未だコロナウイルスの収束が見えず、日本でも緊急事態が続いている。自然災害とコロナウイルス、与えられたこれらの問題を克服することが明日への一歩であり、私たち一人一人が自覚し乗り越えて行かなればなりません。

疫病退散大護摩供毎座勤修

新型コロナウイルス感染症に罹患された方々の快復と一刻も早い終息を祈念しております。